＊R6年度　総評＊

生活では、個々の発達に合わせて食事の量を調節し、無理なく食事が出来るようにしたり、野菜を育て調理して食べる調理体験もし、職への関心も深めている。又個々の生活リズムに合わせてトイレに誘ったり、着脱を見守ったり、午睡ができるように子守唄を歌ったり心地よく体が休められるように配慮している。
遊びでは毎日の生活の中で　自然と関わりをもち、遊びを教えあいながら遊ぶ等している。しかし、年齢にあわせた玩具の提供や設定、配置が不十分でもあり、課題としている。
障害児保育では、研修を受けたり専門機関や保護者の方と連携を取り、より良く生活が出来るようにしている。　気になる子たくさんいるため、ゆとりある保育の中、丁寧にかかわっている。
職員は、常に子どもを主に保育を考え、よきモデルとなるように努めている。又、乳児を寝かせる彩は呼吸チェック等を行い生命の安全を確保できるようにしている。地域の方々との交流を大切にし、行事への参加を呼びかけ等している。子育て支援も行い気軽の立ち寄っていただけるように工夫している。連携として、「報・連・相」が課題として残る。会議等で話し合い、「報・連・相」の意味をもう一度考え個々に意識し、メモを取り伝え忘れないようにする。又、他クラスと保育の共有を仕合い、保育力をより高めていけるよう努力していくことを再確認した。
保護者支援では、連絡帳や送迎時を利用し、子どもの成長を共有仕合える様にしている。　また、園行事を事前に伝え、参加してもらい、保育体験等を通してより生活を知ってもらえるようにしている。ICT化によりスマホにてお便りや情報発信をしている。保護者がつかれているなと思ったら相談室にて話を聞き寄り添っている。
ドキュメンテーションを作成し、玄関に掲示しその日の内容を保護者に写真を添えて知らせているが好評
ICTを活用し保護者・職員が利用し活用できるよう取り組んでいる。